

四王寺山

Mt. Shiojiyama
410.0m



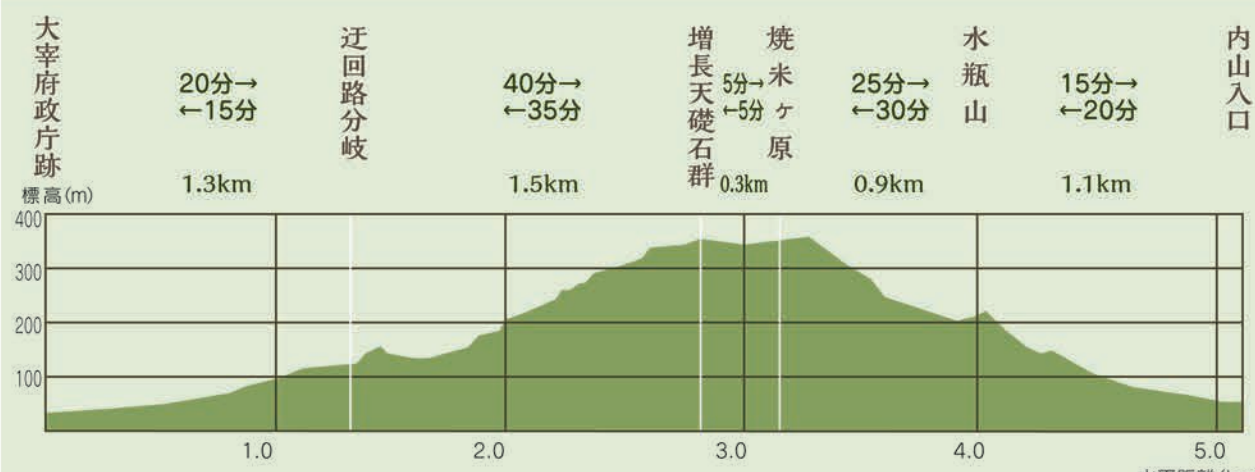
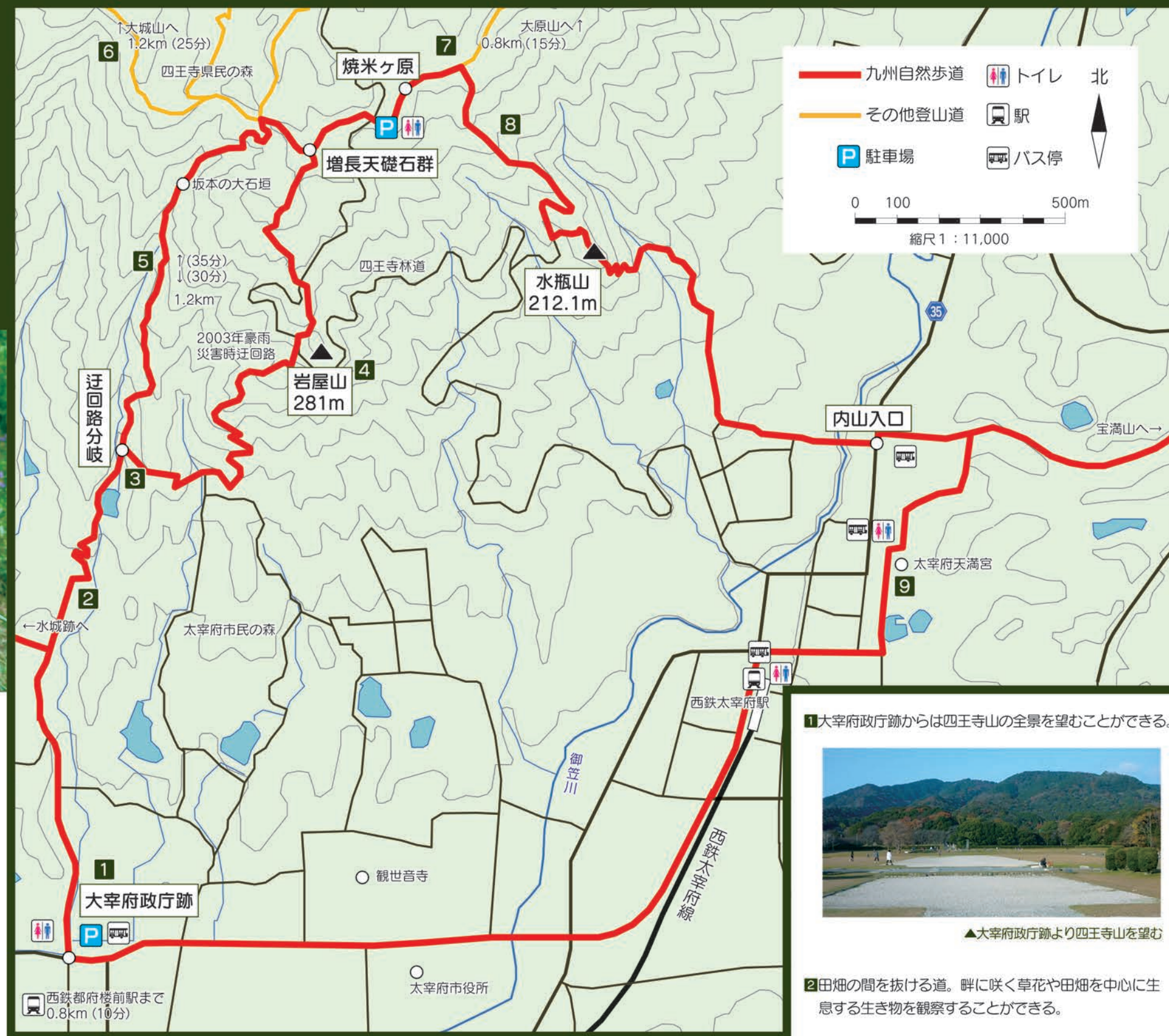
キキョウ

四王寺山の尾根上に広がる草原とウツボグサの花

四王寺山は昔から人の手が入ってきた里山で、1960年頃までは山腹では背の低い雑木林、それ以上ではアカマツ林や草原が見られたそうです。現在では多くがスギ・ヒノキの人工林に変わり、アカマツも尾根筋に点々と残るだけになりましたが、所々に雑木林や草原が残っています。

定期的に伐採されていた雑木林は萌芽力の強いコナラやクリなどの落葉樹主体の林でした。しかし近年人手が入らなくなり、ブナ科のシイ、カシやクスノキ科のタブノキなどを主体とした常緑樹が増えてきています。尾根筋を中心に残っている草原では、県内では見られる場所が減ってきたキキョウやサイヨウシャジンなどの草本類を観察することができます。

また、乾燥して栄養分の少ない尾根筋には、落葉樹のリョウブやネジキ、常緑樹のクロキやソヨゴなど、乾燥ややせ地の指標となる樹木が多いのも四王寺山の特徴です。



※所要時間はあくまで目安です。

1 大宰府政庁跡からは四王寺山の全景を望むことができる。



▲大宰府政庁跡より四王寺山を望む

2 田畑の間を抜ける道。畔に咲く草花や田畑を中心に生息する生き物を観察することができる。



▲常緑樹の多い雑木林

3 山腹には常緑樹の多い雑木林が広がる。山裾のやや乾燥した場所にはシリブカガシなども見られる。



▲シリブカガシ ドングリのお尻がへこむのが特徴。▶

4 岩屋山の山頂は眺望が良い。足元には太宰府市街が一望のもと。

岩屋山より天拝山方面の眺め▶

5 2003年豪雨により荒れた沢。登山道は復旧しており通行可能。沢にはアカメガシワなどの先駆種(伐採後にいち早く生育する植物)が多い。珍しいカギカズラが見られる。



▲カギカズラ

6 大城山まで主に雑木林が続く。尾根筋には乾燥地ややせ地を好む植物が多く見られる。



▲尾根筋に残るアカマツ

7 焼米ヶ原を中心に尾根筋に草原が残る。特に春、秋には様々な草花が見られる。



▲ノアザミ

▲ツクシタツナミソウ



▲ママコナ

▲オカトラノオ

8 ヒノキの人工林を下る。下層植生にはヒサカキのほかコシアブラが目立つ。ウラボシやコシダなど乾燥地に生えるシダが多い。



▲ヒサカキ

▲ヒノキ人工林内のコシアブラ

▲ウラボシ(上)とコシダ(下)

9 クスノキの大木が点在する太宰府天満宮では、ムササビと出会えることもある。





コナラ ブナ科コナラ属
◇落葉広葉樹 高木性

伐採されても切株から芽(萌芽)を出して再生するため、薪炭材などとして利用されてきた、里山の二次林を代表する樹種です。あく抜きをしたドングリは、飢餓時の食糧にもなりました。



クリ ◇ブナ科クリ属
◇落葉広葉樹 高木性

栽培品種よりも小粒の実で、芝栗とも呼ばれます。葉はクヌギに似ていますが、鋸歯の先端がクヌギのようなトゲ状になりません。昔から実は食用に、腐りにくい材は有用材として利用されてきました。



ネジキ ◇ツツジ科ネジキ属
◇落葉広葉樹 小高木性

樹皮が繊維状に細長く剥かれ、和名は幹がねじれることに由来します。初夏に筒状の白い可憐な花を咲かせます。尾根部の乾燥地に生えるやせ地の指標植物で、四王寺山の稜線部でよく見られます。



ソヨゴ ◇モチノキ科モチノキ属
◇常緑広葉樹 高木性

クロガネモチの葉より小型で葉脈がよく見え、赤い実には長い柄が付きまます。やせ地の尾根筋の二次林やアカマツ林に多く見られ、和名は葉柄が長く、風が吹くと音を立ててそよぐことに由来します。



サイヨウシャジン ◇キキョウ科ツリガネニンジン属
◇多年草

キキョウと同様、陽当たりのよい草原や林縁に生え、夏から秋にかけて釣鐘状の青紫の花が咲きます。花序は輪生し、数個ずつ数段に渡って咲きます。キキョウに比べて比較的目にしやすい植物です。

メモ欄(観察日時などを記録しましょう)

観察した生き物は写真右上の口にチェックを入れよう。



リョウブ ◇リョウブ科リョウブ属
◇落葉広葉樹 小高木性

乾燥地ややせ地の指標植物で、新芽は山菜になります。救荒植物として官令で植樹されたことから令法(リョウブ)の名が付きまました。樹皮が剥かれるのが特徴で、夏場に尾状の白い花を咲かせます。



カラスザンショウ ◇ミカン科サンショウ属
◇落葉広葉樹 高木性

伐採跡地にいち早く生育する先駆植物の一種です。大きな羽状複葉でサンショウに似た香りがありますが、食用には適しません。幹に多数のトゲがあり、幹が太くなるとトゲの跡がいぼ状に残ります。



シャシャンボ ◇ツツジ科スノキ属
◇常緑広葉樹 小高木性

秋に黒熟する小さな実はブルーベリーの仲間です。和名はこの実を小坊(ささんぼう)と呼んだことに由来するようです。酸性土壌のやせた土地に生え、四王寺山の尾根筋でよく見られます。



モンキアゲハ ◇チョウ目アゲハチョウ科
◇昆虫類 前翅長 60~75mm

真黒で、後ろの羽の白い模様が特徴です。林の周辺をゆったりと飛び、花の蜜を吸ったり、地面で吸水したりします。幼虫は四王寺山に多いカラスザンショウなどのミカン科の植物を食草とします。

九州自然歩道とは・・・

九州自然歩道は、愛称“やまびこさん”で親しまれており、九州を一周する総延長約2,900kmの長距離自然歩道です。自らの足で歩くことを通じて、四季折々の豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的として整備されています。

福岡県内コースは、北九州市の皿倉山から平尾台を通り、南下して英彦山に至ります。英彦山からコースは東西に分かれ、東はツクシヤクナゲの群生地である犬ヶ岳などを通り、大平山を経て大分県へ続いています。西はツゲの原生林がある古処山、1,300年の悠久の歴史を秘めた太宰府などを通り、基山を経て佐賀県へ通じる総延長261kmの道です。

福岡県内コースマップ
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kyushusizenhodo-map.html>

みんなで守ろう 生物多様性

自然を愛する気持ち、守ろうとする気持ちは、身近な自然を知ること、ふれ合うことから始まります。希少な自然だけが守るべき自然ではありません。身近な自然も生物多様性の一部なのです。地図を片手に身近な自然にふれてみて下さい。

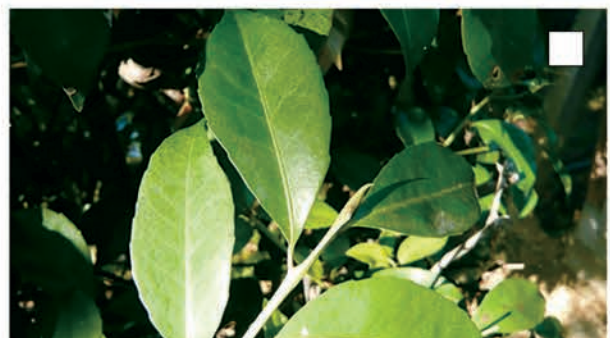
福岡県 環境部 自然環境課
TEL :092-643-3369 FAX:092-643-3357

平成27年3月発行



ハゼノキ ◇ウルシ科ウルシ属
◇落葉広葉樹 小高木性

羽状複葉で秋に赤く紅葉します。かぶれやすく嫌われがちですが、実から採れる木蝨は、現在でも和ろうそくや化粧品原料として利用されています。脂肪分の多い実は野鳥の格好の餌になります。



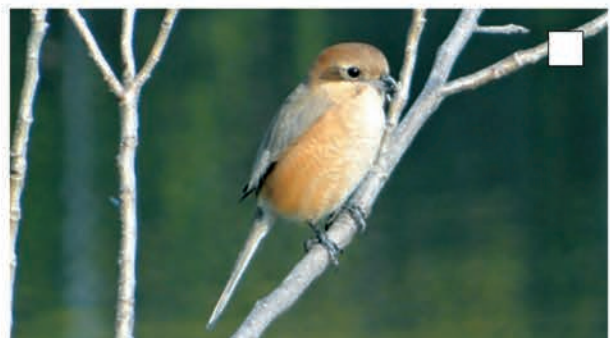
クロキ ◇ハイノキ科ハイノキ属
◇常緑広葉樹 高木性

和名は黒色の樹皮に由来します。葉は革質で厚みがあり、上部に鋸歯がある、若枝に角ばった稜がある、芽の先端が鎌状に曲がる、などの特徴があります。乾燥に強く、乾いた尾根上で多く見られます。



ヤマツツジ ◇ツツジ科ツツジ属
◇半落葉広葉樹 低木性

マツ林や日当たりのよい雑木林の中、岩石地など乾燥した場所に生える乾燥地の指標植物で、四王寺山の林縁などでよく見られます。4~5月頃に咲く橙色の花は、園芸ツツジの原種となっています。



モズ ◇スズメ目モズ科
◇鳥類 留鳥 全長約20cm

平地や低山地の林や林縁で繁殖します。昆虫やカエルなどを捕食し、捕えた獲物を枝などに刺す習性があり、これを「はやにえ」と言います。垂直に近い姿勢で枝にとまり、長い尾を上下に振ります。



ノグルミ ◇クルミ科ノグルミ属
◇落葉広葉樹 高木性

クルミの仲間ですが葉は羽状複葉ですが、実は松かさ状で食用になりません。冬の間も黒い実が残ります。やや乾燥した低山の二次林に特徴的な樹種で、成長が早く薪炭材などとして利用されます。



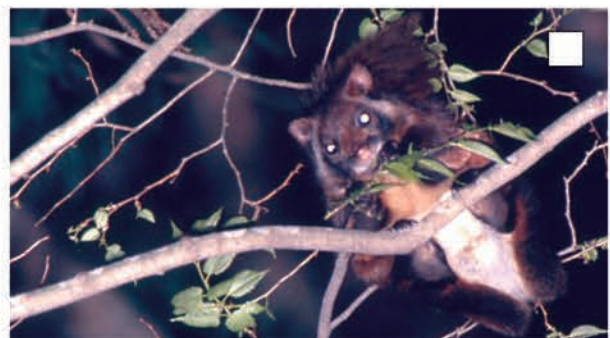
ヤマモモ ◇ヤマモモ科ヤマモモ属
◇常緑広葉樹 高木性

初夏に暗紅色の実がなり、生食のほか果実酒やジャムとしても利用されます。乾燥ややせ地に強いほか、潮風や大気汚染にも強く、緑化木や防風林、街路樹、公園木としても利用されています。



キキョウ ◇キキョウ科キキョウ属
◇多年草

陽当たりのよい草原や林縁に生え、夏場に大きな青い花が咲きます。秋の七草の一つで昔は普通に見られていましたが、年々草原が減っており、四王寺山でも稜線上の草原で稀に見られる程度です。



ムササビ ◇ネズミ目リス科
◇哺乳類 頭胴長 34~49cm

夜行性で主に樹上で生活し、大木の樹洞や人家の屋根などに巣を作ります。前足と後足の間にある膜を広げて滑空し、樹から樹へ飛び移ることができます。大木の多い太宰府天満宮などで見られます。